

協定留学生の記憶の欠片

同時掲載：東西大学校「日本文化研修」報告書



H28年度 協定留学研修を終えるにあたり

協定留学生の記憶の欠片

発行日 2016. 09. 13

目次:

上海大学 楊 潤杰 2

上海大学 鄭 爽 3

河南大学 邱 谷一 4

河南大学 呂 政慧 5

河南大学 馬 路遥 6

河南大学 陳 宇 7

東西大学校 日本文化研修生 8

確かな記憶が残っている。あなた方が成田空港に到着した日の事を。自分の体よりも大きな荷物を抱え到着ロビーに姿を現し、一人一人の心が不安を感じていたことも。日本は近くて遠い国なのか、距離的な感覚がない。わずか数時間で日本の土を踏めるのだが初めて訪問する人には不安がある。言葉そして日本の国民性など今まで想像をしていたものが確実に現実になっていく不安感であろうか。

大正大学での授業は少人数で日本語の授業が行われた。言葉は、運用されることで生きてくる。彼らの多くは机上での学習が中心でコミュニケーションの道具として使われるのは、ここに到着して初めてのことである。教室とキャンパスで友達も多く出来た。知らない内に、友達が仲間になり、声をかけ始めた。そこには、もう言葉の壁も、国の境もなくなってきていた。いつも誰かと話しているみ

んなの姿を記憶している

大正大学には、留学生を囲み、互いの文化を理解し合っていく雰囲気がある。そのことを積極的に進めてくれる熱い心の持つ仲間がいる。留学生は、時々、小さな不安や心配事を抱えることが多いが、いつも大正生に救われている。

今回も多くの留学生サポーターが活躍してくれた。留学生が悩んだとき、壁にぶかったとき、いつでも声をかけてくれたのが彼等だった。そして、彼らとの誕生日会、学習会、一緒に行った鎌倉小旅行などなど。そして、一年という長くも短い留学が終わった。

思い出は、大正大学、大阪、横浜、鎌倉、北海道、歌舞伎教室、学科授業、日本語の授業と記憶に留まった。

そして、再度の再会を約束をして、それぞれの国に飛び立っていった。また会いましょう！と言葉にして。

大正大学で学んだことは沢山あり、両国の架け橋となれたことを誇りに思う



ここに集めた、それぞれの文面は、訂正をしていません。いくつかの間違った表現もありますが、本人が伝えようとしていることは、文字の隙間から伝わってきます。ご理解ください。

私の留学生活

上海大学 楊 潤杰

去年九月十四日東京に来た時の思いはまるで昨日のよう、もはやこの一年間の交換留学も終わりに近づいてきました。最初来た時何もわからなくて、ジョンさんに連れて北区役所に行ったり、ひろりさんのアドバイスで自転車を買ったりしました。

私まだ上海にいる時にも仏教を勉強したいと思って大正大学を選んで、留学に来ました。この春学期に仏教学科の授業を限界までとって、せいぜい苦労しましたが、とっても充実で、楽しい経験でした。

変わった学生として、私は築地でバイトを一年間頑張りました。多分大正生の中に初めての築地バイトかもしれません。やはり普通のサービス業や飲食のバイトと違い、築地はまさにもう一つの大学とも言えるような勉強の所だと思います。接客は勿論、この日本の台所を通して、日本に元気と新鮮を届くのは、皆さん毎朝の使命です。早起きは今でも非常に辛いですが、仕事でみんなの元気が感じられます、もらえます。午後の授業も影響なく、無事一年間やり抜きました。牡蠣専門店なので、日本全国周遊という決心を完成する前に、既に全国を牡蠣をいただきました。会社にも感激な心を溢れています。

また、留学生に対する所得税免除のことも、個人で二回国税庁に電話したことがあります。これも史上初かもしれません、私が自慢しています。無事免除できるのも、会社や先生にお礼を言わないといけません。

更にこの一年間で最も有意義なできごとは、二件もあります。その一は四国遍路です。三月の冬休みを活用し、半分歩き半分電車で、四国遍路を結願しました。これは、言語で表せないほどの苦行でもあるし、自己挑戦自己反省にもなりました。四国の山や川をこの楊の足跡を付けて、1200kmの距離を今考えれば、本当に信じられません。自分はどうやって完成したでしょうと今も時々自省しますが、やはり四国から帰って、この世に乗り越えられないことはもはやないと断言できます。それに、四国で出会ったお坊さんも遍路さんも、四国の皆さんも、私に仏道を教えてくださって、誠にありがとうございました。常に仏教はなんだろうと考えている私に、言語ではなく、体と動きで教えたのは、四国の方たちでした。これは一生忘れられない大事な思い出とも言えるでしょう。

その二はラーメンです。この一年間に、150軒以上のラーメン屋さんには既にクリアしました。色んな店と出会って、個性溢れる店主達も、ラーメンも、日本文化の代表でもあるし、日本人の日常でもあるでしょう。この経験を活かして、私はラーメンランキングを作っています。多分日本人の友たちにとって、これは私の残れるものの中に一番価値あるものでしょう。ラーメンでも仏道でも、人に幸せを伝えるなら、皆仏様の教えと違い、平等です。とはいえ、上海でラーメン屋を開く夢が実現出来るなら嬉しいなと思います。

大正大学にも非常に有難いです。茶道も剣道も弓道も、皆素人の私を受け入れ、心込めて教えてくださって、本当にありがとうございます。日本で日本にいるときしかできない事を全般やる私は、大変充実な一年を過ごしました。日本人の方達からいただいたメッセージの中に一番多いのは、また来てください。私ももっと大正大学で勉強したい、茶道を昇進したい、剣道を出場したい！でも世は無常であり、完璧なことは存在しません。日本にまた帰っても、中国で就職しても、この大事な思いは忘れません、皆の顔と名前も一生私の頭に残れます、と私は自分の記憶力に自信があります。

あらかじめ、誠にありがとうございました。またご縁があれば会いましょう！



留学生活

上海大学 鄭 爽

帰国チケットを予約した時、日本での一年間の記憶がはっと浮かび上がった。昨年留学できるように上海大学に面接を受けたこと、プロジェクトのために先生たちと横浜に見学に行ったこと、3月に上野公園に花見をしたことはありありと目の前にあるようだ。

一昨年N2試験がぎりぎり合格して、不安な気持ちで日本に来た。本格的な日本語の授業はほとんど受けたことはなかったから、日本人の間の会話が聞き取れるどころか、一番基本的な日常会話さえもできなかった。でも、小さい単語から、深い思想と礼儀に至るまで、先生たちは根気よく講義してくれて、感激に堪えない。「塵も積もれば山となる」という諺を信条として、いろんな知識を学んだ。もう日本人の友達とぺらぺらとよもやま話をするができるのは言えないが、さらに日本文化を究める自信を持つようになる。

日本語だけでなく、日本文学にも趣味を持つようになる。「基礎日本文学」という授業のお陰で、傑作を何冊も拝読した。芥川龍之介や、森鷗外や、夏目漱石などの作品によって、日本社会に各時期の風貌がうかがわれた。しかも、板橋中学でのボランティア活動をきっかけに、『枕草子』をはじめとして、優美な随筆も何編も鑑賞して、なんと綺麗な言葉遣いだらう。

勉強ばかりでなく異国の人情風俗を感じたりして、外国人として日本人の優しさに囲まれて、あたたかい。この一年間に、多くの所を遊歴した。秋の富士山やら、冬の関西地方やら、春の桜を咲いた上野公園やら、夏の横浜の花火大会など、日本での生活のおもしろさを味わってみた。一番強い印象を与えたのは神戸にいた時の話だ。京都駅で同行した友達と別れて、一人で神戸の明石海峡大橋の周りに旅行に行った。辺鄙な所だから、夜の帳が下ると、街に人影が絶えるようになった。お腹がすいたから、「やま」というお好み焼きの店に行った。意外なことに、あそこで食べていた人たちは親切に関西弁を教えてくれたり、中国での面白いことを聞いたり、お互いに冗談を言ったりして、笑い声が肌寒い冬

の夜に響き渡った。晩御飯を食べた後で、おかみさんは「すごく歩くなあ。外へ一人で出かけるのが危険じゃないの」とぶつぶつ言いながら、私をホテルまで送った。深い感動を受けた。

もともと自分の専攻は法律だから、日本に来た前に、特定商取引法を教えてくれた先生は日本の大学から卒業したから、よく日本に関わる法律事件を紹介してくれていた。「中日とも大陸法系に属するとはいえ、微妙な違いが多いなあ。チャンスがあれば、本当に日本に行ってみたい」とうちうちに思っていた。幸いなことに、夢がついに実現した。今は日本の民法を学んで、やはり国の文化とか、政治の根源が違って、生まれた法律も極めて異なっていると実感した。

あと二週間ぐらいで日本を離れて帰国するから、この一年間のことを顧みると、儚い夢から覚めたように未練がましい。

青春時代はこの世の花だ。日本についての記憶を心に埋めて、これから未来へ勇敢に行こう。



留学生活

河南大学 邱 谷一

短期留学生として日本でこの年、一生最も美しい夢となった、間もなく帰国するの今、光陰は矢の如しを気づきました。時間の経つのは本当に早いもので、あっという間に全て過ごされました。

2015年9月14日、成田空港は到着して、これは初めて日本の土に足を踏み入れるのです。小学校時代、私と一緒に成長してきたクロウカードを封印する魔法少女の木之本桜と、池袋に出没する「首なしライダー」都市伝説のセルティ・ストゥルルソンを思い出した。ついに日本に来ましたね。

空港を出て行って、空は宮崎駿アニメーションのように、とても美しいです。日本は、私のような小さい頃から日本アニメーションと一緒に成長する若者にとって、言葉で伝えきれない魅力があり、二次元の皆が、このところで生きています。

あれらの美しい景色は実在しているの、この中で最も美しくて忘れられないのは大正大学にいるの毎日です。無数ですばらしい思い出になりました。

初めて日本人と知り合いになるのは桜井先生です。出会うとき非常に緊張して、でも優しい笑顔は父と同じように、緊張する気持ちはだんだん消えてなくなりました。最初クラスの中で、すべて外国人留学生です。日本の学生と多くコミュニケーションするために、学校は交流授業を開設しました。内気のイメージと違い、皆はとても親切で、初めて日本に来たの私にたくさんの助けを与えました。

新学期初めてほどなく学園祭となった、アニメの中でよく学園祭を見て、うらやましがっていました。中国の中高校時代に学業が重くて、生徒たちは自由支配の時間が少なく、学校のイベントも少ない、大学生になったあと、さまざまなクラブ活動があって、しかし学園祭のような全員を参与してのイベントはありません。大学一年生の時に、学院でこのようなイベントが開催されることを提案した、しかし拒否された、原因は今まで知りません。たぶん中国の特徴のように、学生が多すぎて皆を集めてしにくいでしょうか。

日本人同級生の案内で、学園祭当日に行き、たくさんのおもしろい教室に行きました。メイドカフェの教室に可愛いスタッフさん出会った、話をするときびっくりしました、なんと男の子です。しかも、この方は学校のテレビ局の司会者です。彼は非常に根気良くてメイドカフェのゲームを説明して、わからないところがあるいろいろありますけど、それとも遊ぶのがとても楽しいです。

大正大学は仏教大学ですから、学園祭も仏教の要素なくてはならない、食堂はお坊さん喫茶店になりました。書道と書画を掛ける、禅の雰囲気を満たして、扉に入っていないで受け付けるスタッフさんがいて、席に手配を済ませた後に、二人のお坊さんをチャットしに来ます。すべて大正大学の仏教学生さんですが、私が留学生を知った後に、わざわざ話すスピードを緩めて、中国で寺の中で世事に対して超然としているのお坊さんイメージと違う、人なつこくて親しみやすい、話すとき携帯電話とおにぎりを袖から取り出した、お坊さんの服にポケットがない、しかし袖の中で置くことができ、非常におもしろいです。ここから出てきて後に、学生たちが作ったいろいろの食べ物を食べました。

各種の手続きをすませて、そろそろ生活が落ち着いた、アルバイトの準備をはじめました。この前アルバイト経験はゼロですから、いろいろなことを検索して、日本と中国のルールは全く異なる、早めに予約するのが一番重要です。

試してみる気持ちを抱いて、いくつかの求人広告をあつめました。もともと、第一回の電話面接が合格するとは思いがけないことでした。店長はとても優しい人です、もう一度、故郷から遠い日本で、ぬくもりを感じました。次の面接も非常に順調で、私の日本語はよくないですが、店長と先輩たちも私にとっても信じて、日本語がよくなくても大丈夫、笑顔があるのでさえすれば、客は必ず楽しかったができます。この話は私に大きな影響をあげて、これから何をしても笑顔を連れます。

このように、初めのアルバイト体験はあの焼肉屋で始めました。その後知っていて、飲食店はすべての店種類の中で一番忙しいの、非常に疲れている、しかし私は決して後悔しなくて、店で働いたの毎日はとても楽しいです。帰国するというを知っていて、店の皆は送別会を開催しました、みんなとは半年の付き合いの時間だが、たくさん世話になった、ひとつの息が合うチーム、更に互いに配慮する大きい家庭のようです。人と人の絆、共通の目標ためと努力する情熱、昔ただドラマの中から感じて、今は本当に大切な、私の最も貴重な経験になりました。

最初は完全に知らないのルームメイトと、一年の留学生活で色々とお助けいただきました。先生たち、私にたくさんの人情理を教えてくださいました。日本人と付き合い通じて、新しいイメージを生み出した、彼らは中国人ほど親切ではないが、友達になったら、相手のことを大切にします。

紅葉の美しい爽やかな秋、冬で舞い落ちてきた雪の華、桜の季節に上野公園で桜吹雪、梅雨の晴れ間の美しい青空にキラキラの井の頭公園、これら撮ったの写真は人生の中で最も貴重な思い出になりました。未来のある日、この日々を思い出すの私はきつともう一度笑みを浮かべます。



留学

河南大学 呂 政慧

一年はあっという間に過ごしました。この一年間のことを振り返ると、最初はい日本語で自己紹介以外に何でも話せなくて、先生の授業も分かりません。だんだんできるようになりました。そして視野をお広げて世界への関心はもっと強くなりました。先生のおかげでこの一年間で得たものは山ほどでした。思い出は数え切れないほどできました。

日本語の授業が一番すてきです。授業中の勉強は単なる日本語ではありません。日本のことも世界各地のことも数多く知りました。本当に世界的なレベルで行われた授業だと思います。先生は単なる教科書の教えだけではなく、その言葉に関する応用も教えました。留学生たちは一緒に授業をやるから、授業中の異文化との接触でいろいろな面白いことばかりでした。日本はいつも曖昧な言葉が多く、逆に英語とかドイツ語とか中国語などははっきり言うときが多いから、その間の誤解が一番面白いです。

そして、授業以外の勉強も少なくないです。ほかの留学生と一緒にいろいろなプロジェクトをやりました。その中に一番印象的なのは「横浜プロジェクト」です。横浜中華街、明治時代の外国人墓地など色々みて、そして色々な本を読んで努力しました。先生のおかげで、勉強になったのは学習の内容だけではなくて、学習の方法あるいは研究の方法も学びました。授業中に放課後の食堂さえはほかの留学生たちと話し合っ、本当に留学生たちのおかげで韓国やドイツの食文化とかも色々勉強しました。春学期にも色々なところに行って日本の歴史や文化をも楽しみました。先生たちの計画でやった「鎌倉見学旅行」で、アメリカからの学生と日本人の学生さんと一緒に鎌倉時代から残った古道を歩きながらその時代の人々の仏教信仰はこんなに盛んになったのもびっくりさせました。国立劇場の歌舞伎鑑賞教室に歌舞伎のことは少なくとも色々勉強しました。そけをきっかけに日本の伝統的なものに関心があっ、能とか落語とかも色々調べて勉強しました。雨の日に国立博物館への見学で素晴らしい工芸品（漆器とか）と手芸品（織物とか）などを見ました。賛嘆しかありません。

大正大学での生活は充実です。授業以外はサークル活動も色々やりました。大正大学のサークルが数多いので、特に趣味がないので、最初は何を参加しようかすごく迷って色々考えた末にダンス部、卒業アルバム委員会と茶道部に入りました。

半年ですけれども、すごく楽しかったです。日本の大学生と一緒に何かを打ち込んで、本当に日本の大学生生活に楽しみました。文化の違いがあっても、みんなは同じグループと一緒に何かをやる事ができて本当に不思議ですね。特に、茶道部のみなさんと仲良くなって、一生の友達になりました。茶道部での稽古から日本の茶文化も色々勉強しました。でも、サークルから味わうのは喜びだけではありません。たぶん文化の違いでダンス先輩にタメ口で話したら、日本人の友達からの先輩に敬語を使ったほうがいいですよと言われました。ここで日本社会のことも学びました。

日本にいる一年間で、友達と一緒に旅行することもすくなくないです。東京の皇居、タワー、明治神宮、浅草寺、渋谷、銀座など遊びに行きました。夏休み中、京都、大阪にも行きました。二条城とか大阪城とか色々見ました。そして、大阪と京都の歴史を学びました。

この一年間の留学の体験は私の宝です。一年間で学んだことはきっと将来の生活にも就職にも役に立つと思います。周りの人々に本当に有り難いです。



わたしの留学体験

河南大学 馬 路遥

去年九月の夜日本に着いた時のことはまだはっきりと目の前に浮かぶが、一年間の留学生活はもうすぐ終わる。今回の留学によって、これまで本やインターネットで見た日本、理解した日本文化をやっとこの身をもって感じるようになる。この一年の留学生活を振り返ると、自分が多くの面で勉強になり、成長するようになったと思う。

初めの時、日本に来て、数日しか経っていないのに、運が良かったのか、先輩の紹介で人より一歩先にアルバイトを見つけることができた。こうやって、私の留学生活は始まった。外国生活は私にとって、初めてゆえに、全てが不慣れで心配になった。また、新しい人との付き合いを始め、一人暮らしをしなければならない立場になったのだ。そして、なによりも様々な国から来た外国人との付き合いも私にとって、大きな問題になった。留学の間に、いろいろとはじめてのことで、例えば、冬休みに時、ともたちと一緒に関西に旅行すること、授業での発表したこと、日本の祭りで日本人の友たちと一緒に遊んだこと。日本の文化も深く理解して、日本の多くのところに行って、本当に楽しかった。もともとあった不安な気持ちも消えて、日本語の勉強だけではなく、日本の伝統、習慣などさまざまなことも学ぶことができて本当に良い勉強になったと思う。

本人と付き合いを通して、日本人と中国人の考え方の違いも分かる。それに、日本の文化、伝統的な風習などを味わうこともできる。どうして日本人が働きバチのような勤劳だと言われているのか、どうして日本人が過労死の噂があるのか、どうして国土の面積が小さくて、人口が少ない国は短い数十年間、世界中の指折数える経済大国になったのか、日本人が自分の仕事に執着していて、真面目にコツコツ働いている精神にあるのではないのでしょうか。これは私たちも見習うべきだと思っている。

また、この留学生活によって自分の視野が広げられる感じがある。特に何回のまちなかキャンパスに参加し、日本人と韓国人の学生たちと一緒に自分の国などの話題を討論することによって、私の目は中国や自分の専門だけに拘るのではなく、もっと広い世界と広い領域に向かっていくようになった。

日本に来てからもう一年間を経ちました。青森のおかげさまで、たくさんの友達と知り合っ

て、いろいろなすばらしいの自然景観と人文歴史も知りました。私にとって、これらは大切な経験だと思う。このほか、一年間で苦しいの一面もある。異郷にたった一人での孤独感、他人に認められないのしょうがない、前途をはっきり見えない困惑感、私にとって、これらも大切な経験だと思う。楽しいでも、苦しいでも、ありがとう！もしこれらを体験しなかったら、現在の私がいらない。

この一年間は私にとって非常に大切な体験だ。大正大学の留学生として、これから私はこの大切な体験を身の周りの人々に伝えるのに頑張り、彼らの心に少しでもの変化を起こさせていただければ幸いです。



私の留学生活

河南大学 陳 宇

「時間は流水のごとく、記憶は谷川に映したもののごとし。水は流れる、しかし投影は永遠に残るものです。」振り返ると、この中に一番きれいだと思います。それは留学生として、日本に初めて来た時のことです。

私は2015年9月から2016年8月にかけて、河南大学出国プログラムに参加し、日本での東京都大正大学で一年間留学していました。19歳で初めての海外でした。

最初に日本についたばかりの私にとって、そこはなんか新しい世界でした。顔立ちがちよっと違ってくる人たち、まだ慣れていない言葉、新しい景色でした。私はこの新しい地域での生活を楽しみながらも、不安でした。家族がいなくて、一人でした。しかし、生活し始めたら、独りじゃなくなりました。仲間と付き合っ、交流し始め、学校でクラスメートができました。先生たちは一番助けてくれる人たちとなりました。勉強は何よりも楽しかったです。先生たちは教えてくださり、私は授業が分かるようになりました。このように優しい人たちに恵まれて成長しました。

日本で一年間（実は十一か月）生活すると、日常生活の色々な面からも日本や日本人をもっと理解するようになりました。日本人は環境を大切に、空間と資源を最大限に利用します。他人と付き合う時、礼儀を重視し、お互いに一定の距離を保ち、相手の私生活に深入りしません。多分そのために、日本人はほとんど優しく見え、過激な言葉や行動をする人は少ないです。また、日本人は目や体での交流も少ないです。英会話授業の時、全然先生を見ない先生もいるし、ずっと頭を下げるままに発表する学生もいます。西洋人や韓国人に比べて、日本人はちょっと内的な民族だと思います。

その一年間私は日本語を学ぶ一方、中華文化を外国人たちに試みに教えてきました。それはまさに文化交流であり、それを通して感じたことは私たちの違いは随分小さいということでした。学問をし、自分の人生にやり甲斐を求める、全て私たちの共通点です。今回の勉強でお互いに協力し信頼しあえる友情の金の橋ができました。異国の人たちとの交流はそんなに難しいものではないと感じました。私たちは同じ平和、幸せの夢をともに抱いているのです。私たちが心をつないだら、国と国との違いとして挙げられるのは、言語といった表面的なものだけとなるでしょう。

「コミュニケーション」は私たち学生によってなされ、人々が慣れ親しみお互いに協力し合うことによって幸せが生じます。私たちは真理を追究し、平和の理想を守り抜き、心の橋によって世界をつないでいきましょう。

一年間の出会いの中で多くのことを考えながら私は成長しました。そして私はこの経験を通して頑張らなければならないと思いました。もっと交流を増やしたいと思い、中国大陸で高校を卒業し、河南大学で日本語を勉強しています。また来日後、友達になった人と語ったり、大学で新しい友達を作ったり、色々な話をしたり、文化交流をして来ました。国家の繁栄とみんなの幸せを夢として、感謝の気持ちを持って努力していきたいと思っています。

以上は私がこの留学生活によって感じたことを色々な面から語りました。この一年間は私にとって非常に大切な体験です。短期留学生として、これから私はこの大切な体験を身の周りの人々に伝えるのに頑張り、彼らの心に少しでもの変化を起こさせていただければ幸いです。



東西大学校 日本文化研修生の報告



色は匂と散りぬるを、我の実も。

東西大学校 ペジヨン



私は、元は日本語を勉強する予定は夢にもなく、彫塑に美大を志望していた。しかし、入試に全部落ちて、他の道を見つける中、日本語を学んで日本で製菓を学んでみてはいかがという考えで日本語を学び始めたが、その中で日本の他の食品などにも興味が生じ始め、韓国にあるものだけでは気に入らなくて、日本に行きたかった、良いところへ語学研修の機会が生じたおかげで、語学研修に参加することになった。日本本場の食べ物やら材料を研究しながら、日本語を学びたい私には絶好の機会であった。3月27日、日本に入国して約一週間後、大正大学に

入学したが、ときめい心より漠然として面倒な感情中心であった。様々な心配が多かったが、意外に蓋を開けてみると先生たちも親切に説明もよくしてくださって、必要な場合の相談も受けくれてすごく嬉しかった。90分の授業は本当に長かったが、適応する後からは悪くはなかった。授業は、韓国で聞いたそれよりレベルが高くて大変だったけど、先輩たちの助けを受けながら、それなりに努力もして、先生の指導のおかげで、韓国にいるときよりも実力と経験が成長してとても嬉しかった。

大野先生の普通の授業がなくても、山内先生のもっと自由らしい授業、漆先生の中国漢字が混ぜた漢字授業、野村島先生の英語授業があったが、個人的には英語授業が一番心に残る。なぜなら、最初の授業の時からカードで桁を決めて、他の日本人学生と混ぜて座らされた、その時英会話をするふりをしながら、実は面倒からやりたくない日本語で密かに話をしながら興味あるものも話しながら親しくなった。その日のおかげで、私はその日本人友達と近付くて、日本人の友達の中で最も親しい友人になった。

そのほかにも、鎌倉に行った時が思い付く。最初は赤の知らない人とアメリカ人と組を組むなって「これは何共産主義式のやり方？」と心中で思っていたが、意外にその時親しくなった人もできた。萌花さんという大正大学の4年生なのに、みんなと仲がいい人なので私のような人とも話してくれるかどうか心配をしてたけど、本当に親しく近付けて、後には上野動物園、巢鴨見回りと浴衣を着て学校祭りも一緒に行った。萌花さんのおかげで日本の文化体験と、みたいものもたくさん見ながら助けを受けた。

実は、私は他の人に比べて知り合いをたくさん作れなかった。研修の時に交わって今も話ながら仲良くしている日本人の友達は今先に話した二人だけないけど、私は薄くて広く交わるのよりは狭くて深く交わるの方がもっと良くて、大勢でのみ遊んで、私を本当に好きくれる人たちが私を忘れられることより、気にして深く交わりたい。

だから今の友達にも十分に満足すると思っている。

その他にも、個人的に料理に関する多くの情報を探していた。まいにちスーパーに行って韓国には売ってない食材を見たり、暇があれば赤羽の商店街に色々見回りをしたり、週に一度はブックオフに行って中古の料理の本を買った。帰国する時に本が重すぎて苦勞をたくさんしたが、苦勞したのが全く惜しくない本なので後悔はしていない。

4ヶ月は私に長くも短くもない時間だったけど、私は後でこの学校を卒業した後、日本にいるときの体験版と考えている。今回の私はまだ準備ができなかったけど、次回には前のこんなミスをしないように気をつけて、次を準備する心得をしっかりとった機会だと考えている。



華やかで古風な魅力がある国。私に日本は、学生時代から生きたかった国の一つだった。日本の多様な食文化、遊び文化にも関心が多かったがその中でも断然、ファッション文化に最も関心が多かった。服を買うのも、コーディネートするのも好きな私に日本ファッションはとても興味深いものだった。それで大正大学語学研修、日本留學生活が実に期待された。心配よりはわくわくする心が、頑張ってたくさん学んで来と抱負がもっと大きかったらしい。それで4ヵ月という時間の間、私の余暇生活で'服'が大きな割合を占めた。立ち食い料理を食べて歩き回りながら自由に旅行することより原宿や渋谷を歩きながら服を見物することがそんなにも面白かった。多様な人々のさまざまな姿を見るのも楽しかった。日本のトリートファッションは難解ことができる。ある人はすでに難解と話して、また他の誰かは時代をリードしていく個性と称したりもする。私は二つの意見が正しいと思っている、とにかく日本のファッション文化を愛する人の一つである。いつもこんなこともあった。原宿の魅力にすっかりはまった俺が盛んに通りを通いながら写真も撮って、気に入る服にお墨付きをもらっている時だった。特に清潔でディフィーがうまくなっているし、服のパターンが特異な洋服店一つを発見した。誰も知らない貴重な宝石を見つけた感じで、はやる心を抱えて入った。あれこれ見物して着ても見ながら、独り言をつぶやき、服屋の店員が急に声をかけてきた。彼は私に韓国人か聞いており、自分もソウルファッションに関心が多いとし、仲良くという言葉をかけてくれた。韓国衣類文化を愛するなんて。すごく嬉しかったりして快く納得した。韓国ファッションの特徴と日本のファッションの違いも比較して見て、彼と私は多くの対話を交わした。すべからく共通の関心事は人間と人間がべとべとして親しくなりように役立つため、彼と私は掛け替えのない友人になった。そんなに大層までもなく、軽く交わした話もちろん多かった。トリートファッションと好きな服ブランドを共有もしてみても話もしながら楽しく時間を送っている。写真も撮ってラインも交換するだけに情が沸いて帰ってくる時は心配したこともあった。今も友達と連絡をしながら日本語もたくさん増えた。日本人の友達とたくさん話し合ったらいいという先生の言葉が初めてとこたえた。

知らないことも多く、しなくてみたことも多い私はまだまだ若い。4ヵ月の留學生活も恐れていた私にとっては一種の'挑戦'だった。地震が起きてベッドが揺れる経験もした。それによって避難要領を熟知するようになった。新しい人、それも国籍は他の人とのぎこちない時間を過ごし、それによって大切な縁を得た。私が疲れていた刹那の時間を振り返ってみるとみんな私に大事な経験になったのを今になって感じる。私が好きな分野について自由に勉強して人々とコミュニケーションできる機会を持つということ。それは絶対ありふれた幸運がないということをよく知っている。多い経験、また、私に大事な絆を逃さないため、もっと頑張るつもりだ。



大正大学語学研修プログラムの報告書

東西大学校 チェ ボヨン

この2015年初めから準備し始めて約4ヵ月間の語学研修プログラムを通じて大正大学を通うようになりました。私は日本に行った経験がなかったために初めて経験し日本での生活が少し心配になることはありました。しかし、最初の気持ちはなくて、日本の生活はとても楽でした。学校側で用意してくれた様々な体験活動プログラムなどを通じて学校の授業以外にも日本文化について知ることができました。

そのおかげさまで私は日本人の友達たち、そしていろんな国から日本に留学に来た留学生の友人とも仲良くなれた機会が多かったです。今回の機会を通じて韓国では学べることができなかった細かい部分の異なる視覚を持っている多角的に世間を見ることができました。

そして大正大学でとった授業も独特な経験でした。当然の言葉だろうですが、すべての授業は日本語で進行し、中国やドイツから来た留学生たちと一緒に授業を聞いたから韓国で授業を聞く時とは別な経験でした。例えば、日本歴史の授業について先生が説明をしていただければ日本での見方を他の国の人は違う形で考えをしました。私には新鮮な経験になりました。

授業は単純な説明と暗記を中心にするのではなく、多様に自分の意見を話したり、自分の考えを共有したりしてむしろもっと授業に対する記憶が長続きしました。また、留学生同士だけじゃなくて、大正大学に在学中だった日本人友達との交流はさらに意味深かったです。

授業で習った日本語などの授業を日本人友達を通じてもっと詳しく説明を聞いたり文化が違うから理解できなかった部分などについて話して親しくなることができました。今回の交流プログラムを通じて日本の社会、文化などを包括して全般的に学ぶことが出来ました。今回の研修プログラムで得たことは、将来の日韓の交流などのために関する仕事をしたいと思いました。最後にご支援いただいた多くの方々に感謝するという言葉をしたいです。



日本文化研修に参加して

東西大学校 ハジヒャン

大学一年の時、日本語学科を選んで、入学してからずっと叶えたいことの一つが日本での留学だった。大学に入って日本語勉強をしたため、競争率が高い交換留学より学校の留学プログラムと学校内の交流プログラムにもっと関心を持って探していた。3年生になって複数専攻を初めて、大正大学の語学研修プログラムを考えて、観光学科の授業だけ受けた。4年生の時、大正大学に留学行くと、その時の単位が日本語学科の単位で認定できるからだった。4年生の時、留学を考えた理由は日本語で話せる時に留学に行きたかったからだった。個人的には日本語ができない状態で留学に行くと、吸収できることが少ないとおもった。もちろん、個人の差によって違うけど、私は留学に行くと、日本人友達と遊んだり、サークルも入りたかった。実際に日本語の実力が伸びた後に行った留学は本当に楽しかった。交流プログラムで日本も訪問したことが何回あったし、日本語も完璧じゃなかったけど、自分が思っていることを日本語で話げできたから、他の人よりは日本にすぐ慣れた。四か月の留学期間の間、遊ぶ時に、できるだけ日本人の友達と遊びたくて、自分から積極的に話をかけたりもして、性格もプラスになった時期だった。実際に留学をして使う日本語もまた違う点が多くて留学の重要性も沢山気付いた。本で勉強することは限界があると感じた。実際に日本で生活しながら、分かるようになる生活の言葉と、友達をお喋りしながら分かるようになる流行語と省略語などは韓国で勉強する単語と他の感じの単語の勉強だった。学校生活も、もちろん、100%日本語で全体の授業が進行されて、自然に聞こえるようになる環境になった。学校だけでは会話の実力が伸びる機会が足りないと思って、サークルも入った。私が入ったサークルは児童研究部というサークルだった。このサークルは毎週日曜日に部活があって、その日にお寺とか、保育園を借りて、その場所で子供達と料理を作ったり、ゲームをした。遠足では動物園とか水族館にも行ってた。最初は単純に子供が好きで入ったけど、実際に活動したら、疲れる時も多かった。子供は本当に子供だった。考えと行動も真剣に考えてなくて、単純だった。むしろ、その部分をもっと私に勉強になってきて、私も発展ができた。ドラマで出る可愛くて優しい子供と実際に会う子供はやっぱり違いがあると思った。命令で子供に言ったら、子供はそれを斜めに受け入れて、むしろ、背く場合が多かった。それで、腹が立っても子供に柔らかい話し方で話す練習も沢山した。それで、人とのコミュニケーションの能力が自分でも沢山向上できたと思った。サークル活動をしながら、最初に親しくなかった友達もいつの間にか仲良くなれて、サークルの活動もすごく楽しかった。その友達とサークルの活動について話した時には、本当に盛り上がり、完全にこのサークルのメンバーになった感じがした。その上、自分でも日本語が上手くなっていくのが分かった。これが本当に楽しみの一つだった。大正大学の授業は勉強だけではなく、実際に日本の文化体験ができる多様な授業が多かった。日本の伝統的な演劇の歌舞伎を見に行ったり、神奈川県にある鎌倉に行って多国籍の友達と交流もした。それ以外にも、博物館、文学館も行った。大正大学の語学研修プログラムは四か月の短い留学だけど、その四か月を充実に過ごすことができるいいプログラムだとおもった。



日本文化研修に参加して

東西大学校 ハン ソル

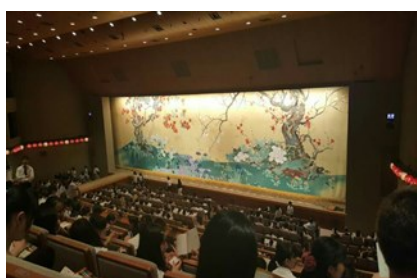
大正大学の四ヶ月間、最初に私は完全に日本語だけで授業することについて「授業に他の留学生より劣れば」という心配しましたが、心配したことより授業の内容はよく理解できましたが、授業の後、先生に質問するたびに自分の足りない実力（言語、アクセントなど）をに対して切実に感じました。しかし、先生の授業と他の国の留学生と交流しながら自分が日本語を使うときの口癖を認識して日本語実力を向上するために努力するだけではなく、自分の知識と考えかたが成長することを感じることができました。まず、大野先生の授業には本に習うこと以上、授業に関された資料で説明してもらいました。その以外にも日本人の発音、アクセントなど、言葉の意味に対して教わりました。そして日本の歴史について個人あるいはグループで発表する授業に図書館で日本の資料を見て日本の立場に対して教えられることと先生のアドバイスを受けることがいいでした。

山内先生の授業には多様な種類と主題の文を通じて読むことと書くことが中心になりました。その中で印象深いことは古典文学と言語の定義に対するの授業でした。韓国には日本の歴史時間に簡単に説明もらうことだけですが、この授業は題目と簡単な説明だけで知っている文学を実際に読んで細かに教えてくださっていいでした。そして言語の定義に対する授業には私が漠然と知っている知識をもっと深く習える機会になりました。却って私の実力が足りないので授業に積極的に参加ができなかったことについて心残がする授業でした。

授業以外にも文化体験がありました。鎌倉、歌舞伎などを通じて日本に生活しながら接しないことを体験すること、日本人の学生と交流で自分の日本語と授業に習う日本語以外、同じ年が使う日本語、無意識的な日本語の間違いは認識することはいいでした。だが、事前に告知したことを聞き流した学生のせいで日程の時間を滞ることについて桜井さん、他の留学生たちに申し訳なおことと感謝しさを感じました。

昨年の学生たちに帰国の日程が忙しいと聞きましたが、今年は終講と修了式の後で3日ほど余裕があっただけでしたが、言及したように事前に告知したことを聞き流す学生、グループ課題をする、そして団体生活に不誠実な態度の学生について残念でした。来年から研修の志願者を選ぶとき、日本語実力も重要ですが、個人の態度と団体生活ができる資質も重要だと思いました。

そして療側の親切のおかげで研修を無事に終えることができました。大正大学校に4ヶ月の授業と学生と交流は私にとって得難い経験をつむ機会でした。





日本語を専攻に選択したからいつか日本に行って勉強してみたいと思ったが、大正大学の語学研修といういい機会があって参加するようになった。最初は4ヵ月間、家族と離れて生活しなければならないということと、まだ1年間だけしか勉強しなかったから日本に行って日本語だけで一週間ずっと授業を受けること、課題も日本語でしなければならないということに対して負担感があったので適応するのが難しかったが、理解できるように何度も説明して下さった先生たちと経験が豊富な先輩たちがたくさん手伝ってくれて授業をよく追いつくことができた。

韓国で授業を受けった時とちょっと違う方で教科書だけでなく、ニュースや小説など、色々な分野についても勉強することができ、2年生から4年生まで、うちの学校の学生たちだけでなく、ドイツから来た学生と中国から来た学生たちと一緒に授業を受けながら日本文化とともに他国についてもたくさん分かるようになった。日本は昨年に京都に行ったことがあって、今番が二番目だったが、京都に行った時は実力も自信も無かったので大変だったが、東京で生活しながら多くの人たちにぶつかったり新しい友達を付き合ったりして実力がたくさん増え、先生にまた日本に勉強しに来いという話を聞くほど会話や聞き取りがかなりうまくなった。それ他にも昔から行きたかった秋葉原やディズニーにも行って韓国ではできなかった経験をしたし、学校から団体に歌舞伎を見に行ったり鎌倉、東京国立博物館に行ってきたのは私の狭くて狭い見聞を広げることができるきっかけになった。

4ヵ月間、単純に日本語勉強ばかりしたものではなく、色々なことを見たり感じたりでしてたくさんのことを学ぶことができた。長いと思えば長い時間だったが、私にとっては短く感じられたので日本語能力試験の勉強も授業受けるこもちゃんとして留学でまた一年間日本へ勉強しに行きたい。

私が最初に語学研修に参加するようになったきっかけは最初は単なる友達が語学研修に行つて一緒に行こうとしたのです。しかし申請してから語学研修に行く前まで時間の間、日本に行つて私は何をするのか悩みました、一緒に行つた友達と違うように私は日本語実力がたくさん不足し、特に、リスニングとスピーチがほとんど不可能だと思わせるほど大変になりました。それで日本へ勉強しに行くなら他のには関係なくて聞くと言うのが少しでも可能することを願つて行きました、



日本に到着して大正大学で入学式を行った時'もうここで私が勉強することだ'という気がし、短期間だが勉強して4ヵ月後にはたくさん発展した姿を期待しました、

初授業をすること、前日に寮でオリエンテーションをした時に1時限が90分をするという消息を聞いて驚きました。普段にかんこくでは1時限に50分程度をしても少し疲れていたが、90分をしながら授業が日本語を聞くのが弱い私がこの授業を集中してよくついていけるかという考えが付くつて夜の間多く悩みをしました。そ

して初の授業の日授業をした時、私は先生が言ってくれることを、ほとんど理解できなかったです。その初日すこし衝撃を受けて私がこんなに日本語ができないんだ。と思いました。それでその時以来に授業に関する内容は事前に予習してから、授業時間にも知らないことをチェックして検索して意味を整理したりもしました。こんなにいるから、少しずつ教授の話が聞こえてきました。しかし、教授が授業中他の話に進んで行けばどんな内容なのか理解できない場合が多かったです。ずっと授業を間違えて聞きながら最大限検索してしりながら勉強をしているが転換の機会ができました。趣味生活でのイベント会場に行つたところで趣味が同じ日本人友達を付き合ったものです。先に私に声を掛けてくれたその友達は不自然に日本語をしている私をたくさん手伝ってくれました。ゆっくり言つても聞き入れ、誤つた部分を直してくれたりして日本語を話したり、聞く時間が増えたため、だんだん日本語を聞いたり、言える機会が増えつつある、1ヵ月後には教授が喋る言葉が思ったよりたくさん理解できました。今にして思えば、その友人のおかげで日本で語学研修で習つたことが多くなつたと確信することができます。

今回の3ヵ月の語学研修で私が最も多く得たと考えるのは自信感です 性格自体も内気で、日本語の実力も思ったより良くないため、人に話を上手ではありませんでした。しかし、日本に来て勉強しながら日本人友人も付き合いながら日本語を書きながら、読んでいると、少しずつ自信ができました。そこに初めて付き合った日本の友達に自分も英語のようなものをととてもできないが、話をしようすれば周辺で助けてくれと言つて、私も怖がらないで話をしていれば周囲で手伝ってくれることだから恐れないという言葉聞いて、もっと勇気を私になりました。それで最初に勇気を出して恣意的に教授に自分の体の問題について話をしてみました。言う部分で間違つたにもかかわらず、聞いてくれた先生を見ながら友達の言葉が合つてるかもしれないという考えを持つようになり、のおかげで少しずつ勇気ができて日本語を話しことができるようになりました。3ヵ月しか経っていない短期間だったが、私には日本語を勉強し始め、今までの3年以上の時間よりはるかに役にになり、貴重な経験をすることになったようです。



4ヵ月という時間は本当に短いです。しかし、私にとって東京にいた私の日々は本当に忘れられない思い出を作っており、本当に4ヵ月間、こんなに多いことがあったんだと思うほど長かった留学でした。2年生の新学期を東京で送るのは本当に辛いと思っていました。

全部日本語で授業することもあるだろうが、何よりも1年生の時に習うのは本当に簡単な日本語を習ったという感じを大きく受けたからです。大学に入って日本語の勉強を始めて、1年生の間は日本語と親くなる方法を学び、2年生の時から本格的に違うように変わるという期待感は大かったんです。そのため、大正大学の講義は私にあまりにも良かったです。日本人たちが考えている日本人たちが普段感じていたものは、日ごろ我々が予想して考えていたのとはとてもたくさん違いました。そして、授業は発表形式で自分の考えを発表をして間違っていたことを修正するのが一番多かったです。私たち韓国語で考えたら簡単な一文一文だが、それを日本語に変える過程で文法、自然な会話体に変更しようとしたので、多くのミスが出ました。いちいち指摘を受けて修正をしたら日本語ということの深い知識を探求する感じでした。絵画という授業というのが別々である必要がありませんでした。基本的にすべてが日本語で行われているために日本語の会話は選択的なものではなく必須的な一部分だったからです。講義だけで日本語会話が必要なものではありません。日本の文化を楽しむためには日本語を使用して日本人との交流が必須でした。学校の行事として靖国神社、鎌倉、東京国立博物館などいろいろな文化体験をしました。東京にはこのプログラムで来る前に2度個人的な旅行で来ましたが、学校行事へ行ったところは全部私が旅行でまだ行って見なかった場所でした。特に鎌倉にいた神社と靖国神社そして個人的に行ってみた明治神宮と浅草神社を比較し、神社ごとにどのような違いがあり、どんな雰囲気の違いがあると感じてみました。神社としての雰囲気と威厳を感じるためには、明治神宮が一番いいんじゃないかなって考えを持って見ることができました。毎行事に行く前に事前に説明を聞いて行ったのが効果が大きかったです。場所を移動するときとそこにいるのを見るとき理解が難しいものなどをそれでも説明を受けたことを思い出して行きながら見ることができました。私の語学研修の生活は講義と学校の主体とする行事もあったけど、普段日本のアニメも好きだったので特に日本の声優や歌手に興味がありました。4ヵ月間、ライブイベントに参加することができれば、参加できる次第申請をしてそこで私と一緒に声優や歌手が好きな日本人の方々と話を交わしてみても声優に会ってみたほうが私の重点な生活でした。韓国でも関心のある方と話をしてみました。日本で直接行事で会って日本人たちと話をしてみたら私が聞くこともできなかった情報を得たり、各自の国で考えることについて共有することができて本当に良かったです。東京ビッグサイト、東京国際フォーラムホール、東京科学技術館、幕張メッセ国立展示場など、多くの行事場に行ってそれだけ東京に多様な電車に乗ってみました。東京の電車は非常に複雑して電車の指導、周囲の日本人の役、警察の助けを受けながら、道を尋ねました。特に、警察の助けをたくさん受けて日本の警察官たちには多くの感謝を伝えます。ライブ場でライブをする時は国籍に関係なくみんなが一つになった感じを受けることができました。ライブ場では偶然に他の学校に留学に来た中国人学生の方と分かるようになって多くの話をしました。お互いに他の国籍に日本語が共通語として扱われ、話をするというのがすごいというのを感じました。私が通っていた行事の中で一番印象に深かったのは東京の科学技術館にいた声優たちが出て、いろいろな仕事をしているイベントです。日本の声優たちは本当にすごいなあと感じました。多くの人々が見る前で自分が担当したキャラクターを自然に延期してこのキャラについてどのような考え方を持っていて、さらに演技をよくできるかという考えを常に持っているということに感動しました。韓国にも声優はあるが、日本の声優は本当に大きな人気を持っていて影響力が大きいと思います。このような日本の声優らをすごさを私じゃなくても知りたい方に伝えるなら、日本語をもっと勉強をしなければならぬと思いました。



日本文化研修に参加して

東西大学校 キム・ドウオン

私が日本で生活しながら最も良く感じた点は、日本のデザートでした。その中でも私が一番好きだったラムネ飲料水のアイスクリーム、そして韓国ではよく販売をしないメロンソーダ、そしてビジュアルが莫大なパペそして写真に撮らなかったが、韓国では比較にならないコンビニのデザート種類が一番よかったです。



二番目に良かったのは日本のアニメ文化でした。私がピカチュウをかなり好きなので写真は撮れませんでした。池袋にあるポケモンセンターで多くのピカチュウのグッズを買いました。この写真が一番気に入って上げました。



そして私が学校で一番印象深かったのは大野先生の授業でした。私は実は日本語の中から文法と漢字が特に弱くてうまくできるかどうか心配しました。しかし、私の心配とは違って、大野の先生の授業はあんなに学生たちに発表形式としたため最初はぎこちなかった授業だったが、次第に私が習った日本語先生の中で最高だと思いました。

そして私はルームメイト維新先輩と一緒に寮から距離が約13KMなる自衛隊センターを歩いて行きました、最初に歩いて行こうと言ったときはもうないようだと感じました。しかし、行ってきてから本当にこの出るほどやりがいのある日がありました。自衛隊センターを見物することができて良かった点と交通費を節約した点、そして一番良かった歩いて行った。

そして最後に私を4ヵ月間過ごすように手伝ってくれた寮にいます。私がここに来てはじめて2段ベッドで寝ることになったが、事故も飛べるたためにとっても心配しました。

しかし、予想とは違って、4ヵ月間本当に私をよく捕まえてくれて辛いときに手伝ってくれた先輩のおかげで4ヵ月間、大きな問題なくよく過ごすことができました。

ここまで私が日本で感じた点です。お読み頂きましてありがとうございます



日本文化研修に参加して

東西大学校 キム ジヒョン

私は周りの人たちより私の実力がたくさん不足だと思って大正大学での4ヵ月間、多くのことを学んで行くことと決心しました。

初めて日本で生活を始めた時に、寮で寮管理人の方々が親切にしてくださって、問題が起こる時、解決するのに大きな助けをくれて本当にありがとうございました。そして韓国の生活と多くのことが変わって適応するのに時間が少しかかりました。今まで他の家庭で他の習慣として生きてきた人たちが集まって暮らすため、各自の習慣や生活リズムを合わせるのが大変でした。それでも適応して、相まっても仲良くできて幸いだと思います。しかし、4ヵ月間生活しながら、いくつかの人たちが互いに合わせようとせず、ルームメイトに自分の習慣を強要して悪化する場合をよく見たが、次には部屋を決める時、お互い合わせられる人同士が部屋を使うのが良いと思いました。

大野先生の授業時には本を通じて授業したが、授業進度に気を使わずに学生たちの理解を最優先にするだけでなく、日本の生活、単語、語彙などをたくさん学ぶことができました。また、日本語文法を活用して例文を作って例文を修正されて、他の人たちの例文を見ながら私の足りない点と良い点について学びました。みずから出向いて書いて見ながら授業に参加するのが楽しかったです。また、自分がテーマを決めて発表する課題がありました。図書館でテーマに合わせた本を探して、読んで、整理して、発表しました。

山内先生は毎時間ごとに読み方、書き方、聞き方、話し方のプリントを通じて授業しました。多様な主題の内容を読んで話し、楽しく学ぶことができました。古典文学を授業する時、おもしろかったが、難しくよく理解しなかったのが惜しかったです。

野村島先生は英語を日本語に翻訳する授業をしました。旧教訓や物語を読み、昔の人たちの教訓を学ぶことができました。

チ先生は、中国人でしたが、日本語を流暢に使用していて新聞コラムの授業をしました。内容を説明するだけでなく、文の著者が何の考えで、どんな根拠をもとにこの文を書いたか整理する授業でした。

その他にも鎌倉、歌舞伎、博物館体験をしながら学校内で見られなかった日本についてもっと見ました。鎌倉では昔に作ったにもかかわらず、孤高に存在するお寺を、歌舞伎では現代に受け継がれてきた伝統芸術と演技する人たちの力を、博物館では華やかに極めた昔の文化を見ました。

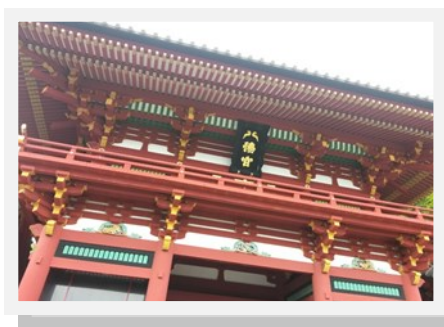
そして6月にイウォンボム先生がいらっしゃって神奈川大学の学術祭でのステップとして参加しました。そこで簡単な使いとコンピューター使用することを補助して、学術祭で多くの大学の方たちが来て多様なテーマについて討論して話す姿を見て、その内容を全部理解できるということに驚きを感じました。専門的な用語も使用しながら話すことを聞きながら、実感することはできなかったが、実力がたくさん増えたということを知ってうれしいでした。また、靖国神社に行き、実際にその所を見て、彼らが主張することが何かを見て聞きながらもっと詳しく分かりました。

約4ヵ月間の生活を終え、少し残念だったのは最初に計画していた通り、日本語の実力は伸びていたが、周囲をたくさん見回ってなかったことが惜しかったです。寮近く、学校近くの、東京の中のいくつかの場所は見ましたが、もっと広いところを見たらもっと良かったのに…という惜しさがありました。それでも多くのことを学びながら本当に意味深いし、良い時間を過ごせてよかったと思います。



日本文化研修に参加して

東西大学校 キム ジョンヒ



4ヵ月間の語学研修が一瞬に過ぎたようです。日本に一度も行った事がなかった私にとっては初の日本の生活が何日、何週間の旅行ではなく4ヵ月間の研修ってことに期待もさらに大きかったです。それで日本に来ていくつかの体験したことや趣味や大正大学の授業、日本でしかできないことの中にいくつか書いてみました。語学研修を受けに来ていくつかの活動があったが、鎌倉の見学、歌舞伎公演の観覧、靖国神社見学後東大生たちとの討論と最後に東京博物館に見学がありました。この中で最も印象深かった活動を手に

挙げると、鎌倉の見学と靖国神社への見学後東大生たちとの討論が一番印象に残って面白かったです。鎌倉の見学は面白かった理由は日本の伝統文化祭などを自分の目で実物を見ることができるからです。ふつう、日本の伝統文化祭、たとえば、神社や祠、寺や仏像などを本やインターネットの写真などで見たことばかりなので、私はこの大学に来る前からこのようなことを実物で見たかったです。また、鎌倉神社に行った時、初めて直接に参拝ということをして見だし、ちょうど神社で結婚式があつて神子さんも見ることができ、結婚式も観覧することができました。また、靖国神社の見学もとても面白かったです。鎌倉の見学と靖国神社の見学と二つの中で一つを選ぶとすれば、靖国神社の方がもっと面白かったです。なぜなら私が太平洋戦争について関心があるから靖国神社は私の興味の対象でした。靖国神社を実物で見たら、妙な気がして、気持ちが新ただが、最も興味深かったのは靖国神社のすぐ隣にある遊就館でした。遊就館には第2次世界大戦当時の戦死者たちの写真と戦争中使用された兵器、そして残骸などと模型、その当時の将校たちの服と遺品などいろんな事がありました。休む暇もなく見物をしました。しかし、よりゆっくり全体的に見物をしたかったんですが、この後の予定があつてあまり見られなかったことが残念でした。その後東京大学に移動して、靖国神社について東大生と討論しました。テーマが韓日間の敏感な部分なので、もし雰囲気が悪くなって喧嘩をするかも知れないと思つてたけど韓国人側で、靖国神社の問題点について発言すると、東大生らは意外にすべて認めました。討論が終わつた後、東西大学生達と東京大学の学生達間の飲み会がありました。その後のにライン交換もしてあれこれ話をやり取りする友達になって良かったです。

大正大学の授業時間は一限当たり90分ですが、東西大学の授業時間より40分も長かったです。最初はかなり長いと思つてよく聞けるかという考えをしましたが、実際に授業を聞いてみると非常に良かったです。授業の方式は例文を作つて来るのを宿題で出してくれば、それを翌日に黒板に書いて読んだ後、例文について一つ一つ話をしたりグループを作つて、そのグループのなかでその科を勉強したりしました。また、一つ一つテーマを作つて簡単な発表もしたり、学期末には最終グループ発表もありました。こう授業方式が聞くだけの方式ではなく、前に出て自分が何かをする参加式の授業方式で授業が退屈しなくて良かったです。



一番最初大正大学募集をした時は行かなかった。まだ実力が足りないと思ったからだ。それからもっと勉強をして、私は3年生になって大正大学に行くようになった。行く前日はときめいたりして怖かったりした。他地もなく他国だからだ。しかし、友達と一緒にいるからだと思って安心した。実際に日本に到着し、大正大学で本格的な授業が始まってから、頭が痛くてきた。まったくわからない言葉だけだった。まだ私の実力はあまりにも低いことを実感できた。それで韓国でいるときよりもっと勉強をすることになった。そして一番いいところは私の漢字の実力が増えたということだ。私は本当に漢字に対して無知だった。ところで、大正大学に語学研修に来てからは、どこを見ても全部に漢字だったため、自然に習得した漢字もかなり多かった。留学が本当に勉強がたくさんだった。そして寮での生活がくれた教訓もかなりある。私は私と一緒に留学に行く友達を見ながら私たちは戦わないよねと思ったが、そうではなかった。もちろん、お互いを殴る戦いはなかったが、トラブルがあった。ちなみに私はトラブルがなかった。周りの人のトラブルを見て私はそうはしないなきゃと思った。そしてこのような状況にはこのように対応すればいいなと思った。忍耐力というのも重要だということを知った。そして何よりも、私が一番大切にすることが縁だ。大正大学に来て、さまざまな人々と親しくなって私は誰よりもうれしく思う。一緒に来た留学生たちだけでなく、同じ授業聞いた中国人留学生たち、そして日本人友達たち。私はこの友達と知り合いになって本当に嬉しい。私は必ず中国人の友達を会いに上海に行くつもりだ。そして日本人の友達が韓国に遊びに来たら韓国にいる間私が観光をさせてくれるだろう。今も会いたい。私の友達。いろいろお世話になった友達にとっても感謝している。短くて長い4ヵ月だったけど、私に多くの助けをくれた留学だった。



学校を通っている間に留学しに行くことになるとは思ってもできなかったのに、偶然大正大学プログラムを知り、申請し、人生で新たな経験をすることになったようでよかったです。日本語が上手じゃないから心配はたくさんあったが、旅行に行くのではなく、日本で生活しながら日本の文化を見て感じる事ができるという考えにワクワクする気持ちで出発しました。

初めて日本に到着した時は東西大学の学生同士と一緒に寮でも部屋を一緒に使用して韓国と大きく異なる点がないようでした。しかし、大正大学に入学しての学校を回りながら、日本人たちが生活するのを見て授業も聞いて、ようやく日本に来たのが実感がわきました。学校の授業は東西大学は50分授業で、大正大学は90分授業なので少し大変でした。そして日本人と一緒に聞くことがない、大正大学に留学来た中国人数人と東西大学の学生同士が別に聞くことが少し残念だったが、教授たちが教えてくれる方式や授業の進捗が韓国と違って新しく不思議でした。授業の難易度は教授たちが韓国語を全く知らないから全部日本語でおっしゃってくださったから日本語が下手な私には韓国の授業より難しかったです。それで理解するのに難しくて大変だったが、周辺でもたくさん手伝ってくれて教授様も説明をしながら簡単な言葉としてもう一度言ってくれて役が多くなりました。試験は別に中間試験、期末試験に分かれておらず、授業の中間中間に張るの漢字試験や会話試験、書き取りなどで成績が出て良かったです。日本人学生とは授業と一緒に聞いていないが、学校で準備されている様々な活動を一緒にしながら親しくなることができ、話して聞く練習もたくさんあったようでした。大正大学を来る時は授業以外に様々な活動があるとは思わなかったのに来てみると、鎌倉、歌舞伎公演観覧、東京博物館、一人だったら行ってみなかったような所をみんな一緒に行って経験して説明を聞くことができ良かったです。そして大正大学に語学研修に行く前に韓国にきた大正大学の学生たちとも韓国で会った縁で、学校でもいろいろ助けてもらって一緒に遊んでいい思い出もたくさんしました。長いと思った4ヶ月は学校に通って、あちこち見物して回る いたらいつのまにか終わりました。帰るとき本当に残念だったが、それでも大正大学プログラムのおかげで、日本人友達も得るようになって、たくさん向上されなかったが、日本語実力も少し向上されて良かったです。



3月28日日本に着いて7月31日帰るまでずいぶん多くなることがあった。人生の転換点とも言えるくらいだ。満開の桜路上を始まりで私の東京生活は始まった。実際に外国に来ると浮かんでいる心と家から逃れたという解放感に少しの怠惰さが加わり、



‘4か月の間どうにかなるんだろう’な思いを持って授業が始める前の一週間を考えなしに過ごした。そして学期が始まってから比較的多忙な適応期を過ごした後、多くの外国人友達たちと交流して日本、中国、英国友達とディズニーランドに行ったり中国友達と秋葉原、池袋、いろんなところを旅行した。そしてたまには一人でたくさん歩き回った。

カトリック信者である私はまず、東京セントマリーナ大聖堂に行った。そこには私が見たものの中で最高に素敵な聖堂と神聖な機運が漂うような感じを受けた。帰る途中電車に乗ったドアから反対側ドアに下すことになったが、‘すみません’一言にモーゼの奇跡のように席を外してくれる人たちに大きな感銘を受けた。



日本に来て2カ月になった時に私は意外のストレスに駆られた。それはピアノだった。私は6歳から今まで一人で趣味でピアノを弾いていた。全く予想もしなかったが…どのようなことだと聞いたら、ピアノを弾けないのでストレスを解消する手段がなくなったことを見過ごしていたのだ。結局、日本で電子ピアノを買って部屋に置いた、(勿論ルームメートの了解は得た。)その時からストレスは消えた。ちょっとしたハプニングだった。

寮の多国的の友達と一つの言語(日本語)で交流し、人生の楽しさを感じた。日本語は本当に優しい言葉だと思う。毎日町で歩き回るだけで幸せ、いつも自信感が溢れていた。

帰国1週間前、私は偶然、ある人に出会い、その人は私に絶対に忘れられない思い出をプレゼントしてくれたし、自分が未来を見るようにしてくれた。

帰って、

これまであった韓国人の間の葛藤、日本の外国人差別から来るストレス日本での空虚感。こんな辛かったことを吹き飛ばしたのは全て私の自信感と行動力から来たんじゃないかと思う。





私に取って、この大正大学はとても良かったと思いました。色んな国から来た留学生たちと一緒に仲良くして、色んな言葉を学んでさせていただきました。そして、日本語と漢字を学びました。特に例文とか漢字が一番難しかったです。でも、漢字が一番弱い自分は、漢字を一生懸命勉強しましたが、ちょっと難しいです。色んな学んでいただいた大野先生に教えていただきました。しかし、私は標準語はできないものの、大体関西弁で話をしていて、努力をしました。大野先生が“イエジさんって関西弁で話したよね。標準語で全然話をしないし。”で言いました。それで私は“私が関西から住んでいましたが、標準語を一生懸命努力をしました。”って私は言いました。本当に大変でしたが、努力をした自分を“よー頑張ったな”と思いました。



それで一番良かったものは日本人の学生たちと一緒に横浜とか鎌倉に行ったことです。日本人の学生たちといっぱい付き合いました。お饅頭お弁当を食べながら色んな話をしたり、お写真を撮って、いい思い出をしました。そして、私たちは日本語が出来ない外国人の学生たちと一緒に鎌倉に行きました。大体英語で話さないといけないので英語をペラペラ話しました。ちょっと難しかったんですが、とても楽しかったです。また会いたいな。



二番は、私が好きなものの“コンビニとジャニーズ”でした。まず、コンビニにとって私はソールフードでした。韓国のコンビニはあんまりないんですが、日本のコンビニは色んな食べ物がいっぱいあるので、“めっちゃええやん！”と思いました。

一番好きなものはやっぱり、パンと焼きそばとたこ焼きが一番大好きです。そして、納豆も大好きです。いや、全部好きです。コンビニの買い物が終わったら、レジの人が“温めますか、00円をおつかります。”の他を言って優しいだと思いました。そして買ったものをサイズを合せて袋をちゃんと入れましたね。韓国は‘早い’があるので自分で

袋を入れます。やっぱり日本が最高だと思いました。

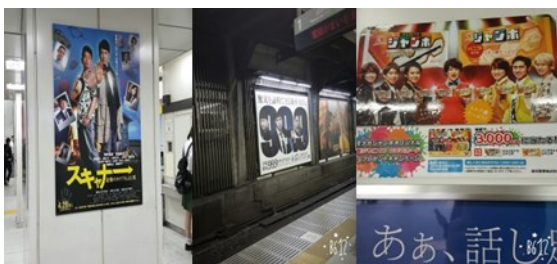


そして、ジャニーズは自分にとって一番好きな芸能人です。私が日本に住んでいた時、ぐぜんテレビが出てものすごく良かったと思いました。そして、その後で、オタクになって、写真や色んなグッズとアルバムを沢山買いましたね。GWの時、自分と同じファンの中国人の友達と“スキャナー記憶のかげらを読む男”（野村萬斎主演安田章大出演2016年）を見たり、カラオケで一緒に歌を歌ったりしました。一番多かったのは電車とかテレビのCMが多かったです。私が大好きな芸能人とかアーティストが多いのでずっとスマホでとりました！

電車とコマチャールが一番多いのもものすごく良かったと思いました。ずっと探しながら、面白いの感じがありました。そして、最後に韓国に帰る前に友達といっしょにリサイタルというコンサートを行きました。とても楽しい一日でした。

また日本にいきたいと思いました。またチャンスがあると本当にいきたいだと思います。

色んな学んでいただいた大野先生と、桜井先生、山内先生に感謝を申し上げます。





大正大学に語学研修を決定付けた時から私は多くの心配と期待を抱いて日本に行く準備をした。果たして私が4ヵ月という時間の中にどのような変化を持って、韓国に帰ろうかと考えながら3月28日、日本に到着しました。日本に来る前に両親は'勉強ばかりして来いという言葉はしない。大きい世の中を見てきて、経験することができるのは思いきり経験して感じて来なさい。'という事をおっしゃった。空港に到着して在留カードをもらってから両親が言った言葉が浮上した。それで一生懸命に楽しみて帰ろうという約束をし、バスを乗って寮に到着しました。家族がなく他の人と一緒に住んで生活するのは初めてだから心配があったが、外国人たちが住む寮なので、新しい経験をして見るができるようだった。そんなに何日間は学校に行く道と町にどんなことがあるかどうかを把握して携帯電話を使用するための、ユーシムチップを買うなど、適応期を持った。

入学式をして学校授業を初めて聞くようになりましたが、何より驚いたのは、日本は韓国と違うように授業時間が90分ということに驚いた。50分授業も辛いときがあったが、90分授業だと思ったら、とても難しい授業になりそうだと思ったが、時間が過ぎたらいつのまにか90分授業が50分のように感じられるだけに、適応している私を見ることができた。

もちろん、授業がきつくなかったというわけではない。一緒に来た他の学生より日本語実力が不足した状態できたものであるために最初授業を開始した時本当に大変だった。韓国で日本語会話時間に日本語で授業を聞いたが、この地での授業は日本文化、文学、漢字など、日本語と日本についてをもっと深く授業を進行して私に少し手に負えない授業と思った。あることは聞いてどんなことはよく分からない私を感じたときは大正大学に来たことが誤った選択をしたのではないかと言う気がした。しかし、この選択が間違っていないということを知ることができた。いつのまにか先生の話と日本人の友達が言う言葉をとても完璧にはないが、意思疎通になる自分を発見することができた。

そして記憶に残る発表があったが、日本の江戸時代時の芸者と遊女に対する発表を教授たちと日本人友達の助けをたくさん受けながら準備をした。準備する過程で教授たちが提供してくれる本と他の資料を探しながら調査をした期間が一ヶ月だったが、発表をした瞬間より準備した期間が私には特別な時間になった。今までやってきた他の発表より特別な理由は何でも韓国語より韓国語より日本語をできるだけ多く見、準備をし、日本人にもっと聞きながら準備したためだろう。日本語に慣れようと努力する私の姿が良くてもっと特別な意味で行ってきたようだ。

そして、英語の授業は英語を日本語で翻訳して、毎度他の組員たちと相談して発表をする授業方式だったが、英語と日本語を同時にすることは難しかったですが英語が嫌いだった私にこの授業は先生の明るい講座のおかげで興味深い授業になった。

大正大学で日本文化を経験できるように鎌倉、東京博物館、盆踊りなど多くのプログラムが多様に設けられていた。そのおかげで日本に対してよく知らなかった部分も知るようになって、新しく知ったことともとも知っていたことが間違っているというの分かるようになった。そして大正大学に来る前に私自身との約束をいくつかしてきたが、その一つが日本人の友達をたくさんつきあうのだった。韓国で学校通うときに、学校で日本人留学生たちと仲良くなるチャンスがたくさんあったが日本語に対する自信がなくてかどうか、日本人たちに簡単に声をかけなくて日本人の友達が本当に何なかったが、大正大学では先に言葉をかけて一緒にご飯を食べようとしながら付き合った日本人の友達がたくさんできた。

4ヵ月をどうに過ごすのかによって日本に来る前と後がたくさん変わっているはずだと思ってきた。本当に私にとって大きな期待はなかったが、私を感じられるほどの変化は生じたと思う。いつの間にか日本語がよく聞こえてもっと話したくなる私が、生き甲斐を感じるほどだ。もちろん、他の人々は私が持った変化が小さく見えるてうらやましいほどではないが、私は大正大学に来たのが本当にいいチャンスだったと思う。4ヵ月短い時間だと思わなかったけど、いざ生活して学校を通うからとても短い時間というのが感じられた。本当にとっても残念だった。初めての東京はとてもぎこちないまま、不慣れなところだったが、今は全然照れくさくしなかった都市だ。日本と日本語に対する関心をもっとたくさんできて日本を去った。今までも日本での余韻がさめないほど良い時間だった。



傷害初の留学生活

東西大学校 パク ソヒョン

大学に入学したとき、いつかは必ず語学研修に行つて来ると念を押していた。その誓いが今年行われた。2年生の時に行きたいが、1年生の時とは他の授業を受けるためにどのような授業をしているか気になるし、申請の時期を逃し、友達がこのプログラムに関心がなかったから一人で留学生活をすることが怖くて申請をしていなかった。しかし、私の個人的な考えは3年生の時行つて来ることが適切な時期であるようだ。2年生の時はレベルがすこし上がった授業を聞くことができるから学校の授業を聞くものが良くて4年生の時は就職準備をしなければならないので3年生が最も適切だと考えている。

3月28日、日本に出国して4月8日、大正大学での初授業を行った。びっくりしたのは授業時間が90分というものだった。果たして私がよく耐えられるか心配になった。最初は眠くて見えるのが日本語、漢字で聞こえることまで全て日本語なので、大変で集中がよくしていなかったが、少しずつ日本語がよく聞こえるようになって集中することができるようになった。本当に胸が一杯だった。それからもう一つ満たされたのは自らして発表した回数が増えたのだ。韓国では組別課題がある授業だけで発表して私が直接手を挙げて発表をしたことがほとんどなかった。正直に発表点数を上げるための目的が初めてにあったが、発表を準備しながら知ようになる知識や日本語実力が少しずつ増えるのを感じることができるため後には機会が来たら躊躇せずに発表をしていた。そんなに発表を通じて日本語文法、歴史、文化など多くのことを学ぶことができて良かった。

日本留学生活の目標は日本人友達もいっぱい作ったり、日本語会話の実力向上させだった。日本人友達を付き合いと日本にいる時だけでなく、韓国に帰ってもSNSやLINEからよく連絡をすれば少しでももっと日本語実力が上がる可能性があると考えたからだ。それで'児童研究'というサークルに入った。日曜日ごとに学校の近くにある施設に行つて小学生の子どもたちと料理をしたりゲームをしながら遊んで、部員の友達、先輩たちとディズニーランドに行つて遊んだりして日本語で会話もし、みんな美味しいものを食べに行つて楽しい時間を過ごした。そんなに下手だが、引き続き対話をしながら日本語の会話実力を積んだ。ある日本人の友達が初めて会つた時より日本語が増えたということを知った時本当に嬉しかった。私にとって日本人友達と教授は宝物のような存在だった。

長ければ長いし短いと短い4ヵ月だったが、今回の留学生活を通じて色々なことを得ることができたしもっと日本語を頑張らなきゃと思ったきっかけとなった。私にとって4ヵ月は、本当に貴重な時間だった。



中学生の時、面白さで日本語を並んで、高校生から本気で勉強して友が「日本の大学に行く」とした時、思った日本留学。まさかそれを私が行くわけないよね。何回遊びには行くだろ。と思ったことを何年後、本当に行くとは思わなかった。最初に申請し、いろいろ準備する時にはべつに何も思わなかったが、出発の前の日の夜にいきならちょっと不安になった。はたして、私がそこでうまく生活できるかな？と。知り合いとしても男のやつらと友達しかないので。だが到着したあと寮に入って、片付けたあと一日、2日すごした結果それは杞憂だった。暮らすのにただ言葉が違うだけで特に韓国と違いなかった。本当に楽に過ごした。入学式まで残る何日の間に回りを頭に刻んだ。そして4月7日に入学式をおこなった。

授業は思ったより難しくなかった。ただ漢字が問題だった。やはり漢字が大事だ。そして今の日本人達がよく使う単語や外国人達がよく使う、間違っていないがどこかおかしいしゃべり方、発音の大事さなどを学校で並んだ。最近の若者が良く使うしゃべり方などは色んなところで聞いて並んだ。やはり現地で習うのは大事だと思った。それ以外にも古典文学や文学について並んで英語も勉強した。なんでここまで来てまた英語を勉強しなきゃだめなのか絶望した。

日本人と同じ授業はなかったが、他の国の生徒と一緒に勉強したり話したり、その国の文化も並んだ。仲よくなって一緒にどこか遊びに行ったりした。

でもやはり日本人との交流も必要と考え、サークルに入ると決めた。本当にいろいろあった。サッカーや柔道みたいな運動系から t r p gサークルまでないものが無かった。いろいろあったが一番興味深いアニメのサークルにはいった。主に同人誌を書いて漫画のイベントで直接参加もするところだったが、必ず絵を描く必要はなかったので気楽に入った。そこには部室もあるし中には漫画は勿論ゲーム機まであったのですごくびっくりした。アニメは本当だった。だが違いところもあった。

部員がすごく多すぎた。

いっぱいあっても20名と思ったのに新入生だけで200名はできて、部室に自由に自分が好きな時間に来て



仲よくなった人達と遊ぶ形だった。そこで同じ趣味の友としゃべったり遊んだりしながら皆自分がしたいことをしてるのを分かった。もし、私もここで、日本で生まれたら私もこの子たちのように自分がしたかったことを諦めずに挑戦したのかなと考えた。ここに来て色んなことを見て、色んなことを並んで、色んなことを考えた。

私は東西大学の4年生チョジョンウと申します。私は今度大正大学日本語研修を通じて日本語はもちろん日本人の生活文化についても学ぶことができました。日本語研究という科目で授業を受けて授業は日本語教育と日本文化・歴史の授業で二つがありました。日本語授業では学生自分で例文を作りながら韓国人がよく間違える日本語表現を中心に学びました。韓国の文法と日本の文法は似ている点が多いですが使う単語とニュアンスの違いが多いことも感じました。授業中私が書いて例文は日本人の先生は理解はしましたが単語の選択と単語の位置がよく間違えてもっと奮発しなければならないと思いました。そして歴史の授業では日本の歴史の中で自分が好きなのを選んで発表しました。私はキムドヴオンさんと一緒に日本の戊辰戦争について発表しました。この発表を通して日本のPPTの作り方と日本語で発表をする機会がありました。私はキムドウオン学生と一緒に日本の戊辰戦争について発表をしました。発表の時間が15分から20分ぐらいで戊辰戦争の内容の中10分の1だけ発表をして個人的には残念でしたが日本語で発表をしたことがよかったです。日本語の授業は日本語・歴史以外漢字の授業もありました。漢字の授業では中国人先生が新聞に投稿させた投稿文で授業をしながらレベルの高い漢字を勉強をしてテストを受けました。この授業を受けながら新聞に出てくる漢字を日本語で読むのはまだ力が入ったが、どんな内容か知ることができるようになりました。日本文学についての授業もいましたが、日本文学の基礎と昔の日本語の読み方、日本文学の表現方法などを習いました。英語の授業もありましたが、日本の学生たちと一緒に授業を受けながら英語を学ぶこともとても意味がある時間でした。私は別途、英語授業をもう一つ受けました。その授業は1年生の英語授業で桜井さんが推薦をしてくれました。英語先生はスコットランド人で韓国に旅行に来てことがある人でした。同じ外国人の立場で話をするときには先生と私は国境を越えた共感することができました。

授業以外にも大正大学の日本文化研修プログラムがありました。このプログラムは、外国人学生たちの日本文化の理解のためのプログラムで鎌倉・歌舞伎鑑賞・東京国立博物館の見学がありました。鎌倉に行ったら旧鎌倉幕府の遺産を見て、韓国の慶州(キョンジュ)と似ていると感じました。歌舞伎観覧のため日本国立劇場に行ったら多くの日本中学生たちがいて、一緒に観覧を見ました。歌舞伎で使用している日本語は理解することがとても難しくて桜以上に通訳を頼んだりしました。歌舞伎俳優たちがみんな男だと聞いて歌舞伎を見たが、その人たちの偉大な演技力を見て感嘆が自然に出ました。東京国立博物館は韓国の中央国立博物館のような場所で、古代日本の遺物から現在に至る様々な遺物が展示されていました。そこで韓国の遺物を見たときは力のない国は、こうなるということを知ると同時に韓国も大国になるため、韓国の学生として努力しなければならないと考えました。

個人的には野球が好きで明治神宮球場・東京ドーム・埼玉西武プリンスドームにいきました。韓国とは違う応援文化で本当に面白いでした。それ以外にも山手線のように東京巡りをしました。一日で25キロを歩いていろいろなことを見て東京生活に役に立ちました。

韓国からイ・ウォンボム先生がいらっしゃって靖国神社を連れて行った時は日本人たちは、靖国問題についてどう思うか、そしてそれについて東京大学の学生たちと話し合ってみた時にはやはり東京大学の学生たちの考えは私より一枚上だということを知りました。

今回の4ヶ月間日本で勉強をしながら、日本人以外に、ドイツ、スウェーデン、イラン、ニュージーランド、イタリア、ハンガリー、イギリスのスコットランドに人に会いながら私が井戸の中の蛙だったということを知りました。海外で諸国の人々を会ってこれから私の未来が明るくなるという確信と私が全然違う人になったと思いました。後輩たちにも同プログラムを推薦したくなりました。



日本で学んだこと



東京都豊島区西巢鴨3-20-1

教務部教育支援課
国際係

HP:

http://www.tais.ac.jp/student_life/abroad/index.html



留学生は日本の文化に触れ、日本語を学び充実した日々を送っていたことと思います。日本は、東日本大震災からの復興を目指し、日々努力をしています。日本と中華人民共和国、日本と大韓民国、日本とドイツ共和国との関係を留学生たちは親善大使として大いに活躍してくれたものと信じています。これからも、多くの若者が行き来できる関係を保ちたいと思います。

それぞれの国に戻った後も、大正大学での学習を思い出し、自分に問いかけをしてください。「今のあなた方を支えているのはだれですか？」

いつか、みなさんからのメールが届くこと楽しみにしています。

平成28年6月

歌舞伎鑑賞教室

新皿屋舗月雨暈

魚屋宗五郎

宗五郎 中村松江

みかた 中村高太郎

解説「歌舞伎のみかた」

禁酒の誓いを破る宗五郎
— なんだって妹を殺しやがった！

団体予約受付中！ 03-3265-6751

6月2日(土)→24日(日)

6月6日(土) 午前10時～ 午後11時～午後2時30分 開演

● 学割 学生 1300円 一般 1900円 28歳以上 3900円 28歳未満 1500円 (座席料別途)

● 電話 国立劇場チケットセンター 0570(07)9900 633556 3600

● インターネット <http://ticket.nj.tac.go.jp/>

● 国立劇場 5月7日(日) 公演についての情報は 国立劇場 検索

